

2021 年度 (R3) 活動報告書

2022 年 5 月

法人名 NPO 法人ミニシティ・プラス

1. 事業活動方針

認定 NPO 法人となった 2020 年度から、コロナ禍になり活動が停滞しています。しかし、そんな中でも工夫しながら活動を止めないように努力をしてきました。

今年度は長年の活動が評価された年でした。2009 年より開始したジュニア編集局の活動が、パナソニック教育財団の『2021 年度子どもたちの「こころを育む活動」優秀賞』を受賞しました。さらにミニシティ・プラス全体の活動が「こどものたちの手で大人と一緒に住み続けられるまちづくり」というタイトルのもと、横浜市の『第 10 回横浜・人・まち・デザイン賞 2022 地域まちづくり部門』を受賞しました。

「ミニヨコハマシティ」は、事務所のある横浜市都筑区中川の遊歩道で隔月行われているマーケットに参加し、ミニマムではありますが実施しました。しかしその活動も 8 月の緊急事態宣言で中止になり、活動を縮小せざるを得ませんでした。その他、横浜市緑区から委託を受け、こどものまちのノウハウを他地域に普及する活動もしています。

また、都筑区とみなとみらいで展開する「ジュニア編集局」は、例年夏休みを中心に取材活動をしていましたが、緊急事態宣言を受けてミニヨコハマシティと同じく中止、延期をしました。オンライン取材なども入れながら、秋冬に活動を再開し、2 月に集大成である「ジュニアタイムズ」をなんとか発行しました。

さらに長年の活動の成果としてノウハウをまとめ、「こどものメディアの作り方」を団体ホームページに公開しました。[\(https://junior.minicity-plus.jp/2022/03/6690/\)](https://junior.minicity-plus.jp/2022/03/6690/)

「特命子ども地域アクタープロジェクト」はコロナ禍で派遣先がほぼ無くなってしまい、大幅に活動が停滞してしまいました。そんな中、プロモーションビデオを創ることになり、撮影を進める準備までを今年度行うことができました。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① こどもが創るまち「ミニシティプログラム」の研究、開発に関する事業

ア. ミニヨコハマシティ in 中川まちなかマーケット

内容) 年間を通してのこども会議、「ミニヨコハマシティ」イベント開催、キット管理他。

日時) こども会議 5 月 2 日、7 月 25 日、10 月 17 日

中川まちなかマーケット 5 月 22 日、10 月 24 日、11 月 23 日

場所) 事務所、オンライン会議、中川の遊歩道

従事者人数) 4 人

受益対象者) ひとりで参加できる 19 才以下のこども 延べ 500 人程度

支出額) 504 千円

② 「ミニシティプログラム」の普及・啓発に関する事業

ア. 学会参加、他のミニシティとの交流や地域の NPO へのイベントの協力。

内容) 第 14 回地域教育実践交流集会 (えひめ) に橋本理事が Zoom で発表、終了後の交流会にも参加。

日時) 12 月 4 日 (終了後の Zoom 交流会は 1 月 22 日)

場所) 全国 (Zoom 参加)

従業者人数) 2 名

受益対象者) 青少年支援者 200 人

支出額) 7 千円

イ. 他地域でのミニシティ開催サポート

内容) 緑区のこどものまちづくりイベント開催サポート

日時) 4月2日、5月25日、6月6日、7月21日、8月5日、8月10日、8月24日、9月13日、9月29日(こども会議)、11月5日準備、11月6日7日本番、12月19日振り返り会。

場所) 横浜市緑区

従業者人数) 8名

受益対象者) 横浜市緑区のこどもたち 300人

支出額) 2,189千円

ウ. こども哲学倶楽部

内容) 生活クラブの冊子への寄稿

日時) 5月9日、10月10日(1回で3回分の記事用)

場所) 市内の会議室、オンライン等

受益対象者) 生活クラブ読者 他

支出額) 15千円

③地域まちづくりの活性化を目指したイベントの企画・運営に関する事業

ア. つづきジュニア編集局

内容) 公募で集まったジュニア記者が、こどもたちの目線での、まちの取材、ブログでの発信、新聞発行を行う。

日時) 2021年5月～2022年3月 取材

場所) 都筑区を中心とした横浜市内、東京都市大学。

従業者人数) 5名

受益対象者) ジュニア記者 20人、横浜市民 35,000人

支出額) 829千円

イ. MMジュニア編集局

内容) 公募で集まったジュニア記者が、こどもたちの目線での、みなとみらいのまちの取材、ブログでの発信、新聞発行を行う。

日時) 2021年5月～2022年3月

場所) みなとみらいエリアを中心とした横浜市内、
神奈川大学みなとみらいキャンパス

従業者人数) 5名

受益対象者) ジュニア記者 12人 横浜市民、観光客 8,000人

支出額) 231千円

ウ. ジュニア編集局による GOGB 取材

内容) ジュニア記者が、2020年オリンピック・パラリンピックのイギリスチームの事前キャンプ地としてホストタウンに登録された。横浜市の取り組みを含む、オリパラ取材を行う。

日時) 2021年6月から2021年12月

場所) 都筑区内、横浜市内

従業者人数) 3名

受益対象者) 都筑区内小中学生とその保護者、一般市民

支出額) (「ジュニア編集局」を含む)

④地方自治体や地域活動団体、国際交流団体等公益団体との協働事業

ア. 特命子ども地域アクタープロジェクト

内容) まちづくりに積極的に関わろうとする青少年を「特命子ども地域アクター」として養成し、まちの活性化のため、現場へと派遣する。地域のにぎわいづくりなどの企画を行う活動であるが、コロナ禍のため移動が限定され、活動がほぼできなかった。今年度はアクターのテーマソングをつくり、プロモーションビデオの企画を行った。

日時) 2021年4月～2022年3月

場所) 神奈川県下の応募した各団体の活動場所

従業者人数) 5名

受益対象者) 神奈川県民

支出額) 454千円

(2) その他の事業

とくになし。